

ラボ・ニュースレター

2012年7月

Vol. 1、第2号



つくば臨床検査教育・研究センター

事業紹介

検体検査事業

今回はつくば臨床検査教育・研究センターの事業の中でも中核をなし、皆さんと関わりの深い「検体検査事業(つくばi-Laboratory)」を紹介します。

つくばi-Laboratoryでは筑波大学附属病院と地域医療機関からの検体検査を総勢22名の臨床検査技師が実施しています。検査分野は尿・便等検査(尿定性・尿沈渣は除きます)・血液学的検査・生化学的検査・免疫学的検査となっています。免疫学的検査では、多機種の免疫検査測定機を配備して、ラボ内測定項目の充実を図っています。

地域医療機関からの検査受託は現在4施設です。今後も受託数を増やし、地域医療機関へ質の高い臨床検査サービスを提供していきます。



免疫分析装置:5メーカー7台の分析装置が稼働



筑波大病院⇄i-Lab 検体搬送車

【地域医療機関との役割分担】

- ◇ 筑波大学附属病院検査部より継承した精度管理による高品質
- ◇ 当日迅速報告
- ◇ 検査コンサルテーションのサービス



平成24年度、研究奨励助成金及び研究支援助成金の受賞者が決定しました。

多数の応募ありがとうございました。6月28日に「研究奨励助成金等審査委員会において、厳正なる審査の結果、下記の研究課題に対し、授与することが決定しました。

○研究奨励助成金 〈研究期間2年、助成額30万円〉

1	リパーゼ改良常用基準法(案)による日常検査試薬キットの互換性評価	つくばi-Laboratory LLP 飯塚 儀明氏
2	FISH+蛍光免疫二重検出の安定化プロトコル開発及びDNAFISH+mRNAFISH二重検出法の開発	総合病院土浦協同病院 池田 聡氏
3	ヒストン脱アセチル化酵素の遺伝子解析	筑波大学附属病院 検査部 大木 圭子氏

○研究支援助成金 〈研究期間1年、助成額10万円〉

1	臨床検体を用いたHPLCによる酒石酸抵抗性酸ホスファターゼアイソザイムの解析と評価	千葉科学大学 村松 聡氏
2	胆管腫瘍細胞の形態学的研究	杏林大学医学部附属病院 小松 京子氏
3	異常免疫グロブリンの免疫学および物理学的研究解析	近畿大学医学部附属病院 井本 真由美氏
4	糸球体疾患における尿中ポドサイト定量検査の有効性	筑波大学附属病院 検査部 横山 千恵氏
5	血液像自動分析装置Cella Vision DM96 Competency Softwareの有効性提示について	つくばi-Laboratory LLP 内藤 麻美氏



平成24年5月12日(土)、つくば国際会議場において『第3回市民公開講演会』が開催されました。

五十嵐筑波大学附属病院長による「オープニングリマース」に続いて、環境省山本水・大気環境課長から「大震災と大気環境保全」、土浦協同病院大原副院長から「健康と放射線」について講演をいただきました。80名の方が参加されました。

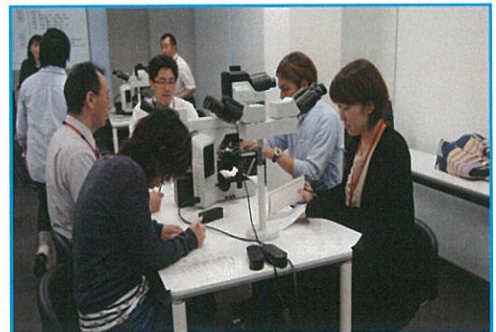
○血液学研修会が年6回、開催されています。

平成24年度の新規事業として「血液学研修会」が44名の参加をいただき実施されています。うち20名は鏡検実習にも取り組んでいます。

○検査室マネジメント研修会が年5回開催されています。

昨年度に引き続き「検査室マネジメント研修会」を実施し、中堅検査技師の育成に取り組んでいます。

各実施プログラムはTMERホームページ掲載しています。鏡検実習の様子



今後の予定

- ・ 大学等での出前授業を鳥取大学医学部及び山陽女子短期大学の学部学生を対象に実施します。
- ・ 外国人招請研修支援事業公募したところ、8ヶ国13名の応募があり、カナダ、スリランカから各1名を招請する予定で進められています。
- ・ つくば市ICT健康サポート事業に、積極的な協力を行います。

○研修室が利用できます。

- ・ 平日は、18時まで開放
- ・ 平日以外は、本センターの職員が参加する場合に限り使用可

研修室利用申請書により申込みが必要です。

TMER事務局まで連絡ください。

有限責任事業組合(LLP)って何？

優れた技術を持っていても財力がない個人や中小・ベンチャー企業が大企業と一緒に仕事をしやすくする組織として、平成17年に創設された制度です。

今後の産学連携の新たな形態として期待されています。



株式会社で作った場合

①法人課税

委託契約の形で共同研究していたときは、両者ともに金額費用計上できた研究開発費が、株式会社形態にすると親会社の方で費用計上できなくなる。

②機関の設置義務

最低でも株式総会を設置する必要がある、規模が大きくなると取締役会や監査役、会計監査人等も必要になる。意思決定のスピードが遅く、無駄なコストも発生。

③議決権・出資比率が硬直的

原則として出資比率どおりの議決権、出資比率どおりの損益分配になってしまう。

LLPで作った場合

①構成員課税

自社で研究開発を実施するのと同じ税制上の扱いを受けられる。減税措置を親会社で利用できる。

②意思決定の柔軟性とスピード

意思決定の仕組みを柔軟に決められる。

③出資比率にこだわらない議決権と損益分配が可能

利益も貢献度合いを考慮して柔軟に分配できる。

寄稿 i-Labでの検査は・・・

健康診断や病気の治療方法の選択・予後の推定では欠かせない臨床検査について、一般の皆様はどれだけ理解されているでしょうか。一般の健康診断や成人病検診では必ず血液検査が行われています。今年1年はシリーズとして血液検査について紹介します。

○ 血液検査でわかること II 糖尿病

糖尿病とは血液中のブドウ糖濃度が病的に高い状態を示す疾患です。糖尿病では意識障害や昏睡などの症状を示すことがありますが無症状のこともあり、体内の微小血管が徐々に破壊され目や腎臓を含む体中の臓器に重大な障害を引き起こす可能性があります。糖尿病に関する主な検査としては「血糖(グルコース)」と「ヘモグロビンA1c」があります。「ヘモグロビンA1c」は過去1～2か月の平均的な血糖値を示すと言われています。

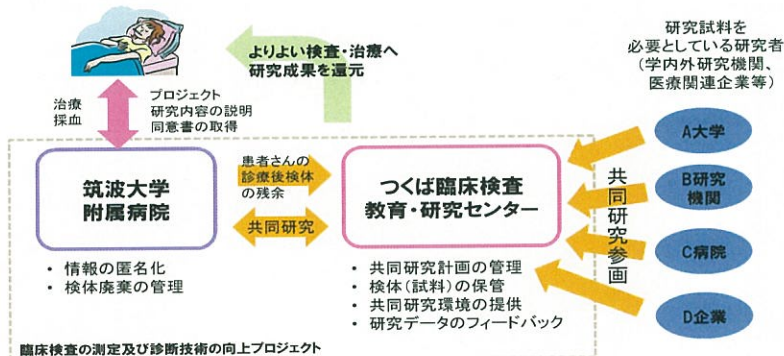
糖尿病型

- ・血糖値(空腹時126mg/dl以上、OGTT2時間200mg/dl以上、随時血糖200mg/dl以上)
- ・ヘモグロビンA1c(NGSP:世界標準値)6.5%以上
- ・ヘモグロビンA1c(JDS:以前の日本標準値)6.1%以上

特集・・・臨床検体を使用した民間等との共同研究

臨床検査の測定及び診断技術の向上プロジェクト

研究体制：各関係者の関係



事業概要

☆平成23年5月に筑波大学大学院人間総合科学研究科及び附属病院倫理審査委員会から「臨床検査の測定及び診断技術の向上プロジェクト」として承認を受け、民間企業等との共同研究事業を開始した。

【研究課題】

「つくば臨床検査教育・研究センター事業における診療検体の保管と共同研究での利用」

☆現在、筑波大学附属病院に入院されている患者様に、本研究の趣旨・診療検体の利用について説明を行い、研究利用の承諾を得たものを民間企業等に無償で提供。

【対象診療科】

血液内科、消化器外科、内分泌代謝内科、循環器内科、膠原病リウマチアレルギー内科、腎泌尿器内科の6診療科

共同研究契約の手続き

☆共同研究に関する申請書を提出。→TMER研究計画審査委員会及び倫理委員会において審査が行われます。3月と9月に開催。

☆申請者は、企業等における倫理審査で承認を得ることが必要です。

☆共同研究は本センターで実施することが決められています。①レンタルラボ方式と②i-Labとの共同研究の2方式から選択。

☆研究用検体提供同意書(MTA)及び必要により共同研究契約を締結。

検体を利用する方法

☆利用できる検体は、①血清②血漿(EDTA、クエン酸)③CBC血④尿等。
☆尿検体は、筑波大学附属病院から当日提供してもらい、IC処理後、提供します。

☆検体は、基本的情報として①病名、病歴、投薬などの情報と②検査結果データが添付されます。

☆研究に使用可能な検体があるか「検体保管検索データ」を提供します。

→企業は「検体請求書」を提出。→必要な検体を提供します。

検体保管



〒305-0005

茨城県つくば市天久保2 -1-17

つくば臨床検査教育研究センター

NPO法人 つくば臨床検査教育・研究センター 事務局

電話：029-850-1050

FAX：029-856-5226

eメール：tmer.jimukyoku@estate.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.tmer.or.jp/

つくばi-Laboratory有限責任事業組合 事業企画部

電話：029-850-1320

FAX：029-856-5226

eメール：mail@tsukuba-i-lab.com

ホームページ：http://www.tsukuba-i-lab.com/



アクセス

